

## 外来魚問題への取り組みについて

滋賀県漁業協同組合連合青年会

本会は、昭和46年に県下の漁協の青壮年を対象に、本県漁業の振興と次代になう漁村青壮年の活動、会員相互の連携をはかり、明るい漁村建設を進めるために結成されました。

近年琵琶湖漁業は、漁獲が減る一方で生活していくことが大変困難な状況にあります。

原因は環境の悪化など様々な要因があると思われませんが、外来魚の繁殖による食害の影響も強く、特に南湖では網にかかるのも在来魚より外来魚の方が多いの現状です。（琵琶湖大橋より南を南湖と呼んでいます）

ご承知の通り、ブラックバスの腹を裂くと中から、エビやモロコ、アユなどの在来魚が多数出てきますので、琵琶湖漁業の後継者としては、このままでは漁業自体を将来にわたって続けていけるであろうかと大変心配しています。

そのような中で、少しでも昔の琵琶湖に戻そうと、エリ漁や刺し網漁、稚魚すくいなどを行い、年間約300～400トン駆除しておりますが、なかなか減らない状況にあります。琵琶湖から1尾も残さず取り除くことは難しいと感じていますが、駆除し続けていかなければ、もとの琵琶湖に戻らないと思われま

す。これまで駆除した外来魚は、魚粉にされて来ましたが、ここ数年前から有効利用の一環として食用にならないかと検討しております。

前年は外来魚の缶詰を製作し、この情報交換会でも食べていただきましたが、味など好評だったにもかかわらず、現在、缶詰製造は行き詰まっています。原因はバスやギルについている硬いウロコで、缶詰に加工するにはこのウロコを全部取り除かないと工場が受け付けてくれません。ウロコが硬すぎて取らずに加工すると口に残り食べにくいのです。

そこで今回は別のものを試作してみました。

これからも幅広く県民に外来魚駆除の必要性をPRし、駆除についての理解をしていただけることが必要と思っています。